エルトゥールル号遭難事件１２０年の節目に当たり
日本とトルコ共和国の友好発展を祈念する決議

明治２３年（１８９０年）９月１６日、オスマン海軍少将を団長とする友好使節団一行を乗せたトルコ海軍の軍艦エルトゥールル号は、帰国の途上台風に遭遇し、和歌山県大島村（現串本町）の樫野埼灯台沖の岩礁に激突、沈没し、乗組員六百数十名のうち生存者が６９名という大惨事となった。

遭難に際し、当時の大島島民は不眠不休で生存者の救助、介護、また殉難者の遺体捜索、引き上げに当たり、日本全国からも多くの義援金、物資が遭難将士のために寄せられた。

エルトゥールル号の遭難は誠に痛ましい悲劇ではあったが、日本の官民を挙げての救援活動はトルコ本国に伝えられ、トルコ国民の心の中に日本に対する親愛と感謝の念を根付かせるきっかけとなった。

地元串本では、エルトゥールル号の遭難以来、第２次世界大戦中には一時的に中断したものの、トルコとの共催で５年ごとに慰霊祭を催し、現在に至っている。

昭和６０年（１９８５年)、イラン・イラク戦争が激しさを増すなか、イランの首都テヘランから脱出しようとする百数十名の邦人を救出したのは、２機のトルコ航空機であった。この救出劇の背景には、９５年前のエルトゥールル号事件を礎として続いている両国の極めて親密な友好関係があったと言われている。

本年は、エルトゥールル号遭難事件から１２０年目という節目の年に当たることから、日本・トルコ両国政府による「２０１０年トルコにおける日本年」に位置づけられており、両国の友好関係をより深めるため、トルコ国内において日本の文化等の紹介行事が一年を通じて多数開催される。特に、９月には、串本町と友好関係にあるメルシン市において、エルトゥールル号１２０年慰霊式典が挙行される予定である。

ここに本議会は、日本とトルコ共和国の両国民間の相互理解、友情、交流を一層深め、両国の友好関係を末永く続けていくことを願うものである。

以上、決議する。

平成２２年６月２３日

和 歌 山 県 議 会